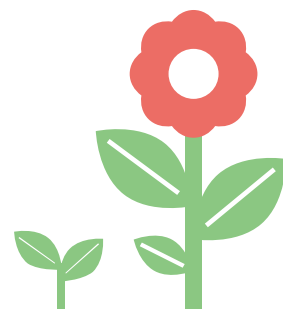




千葉大学園芸学部

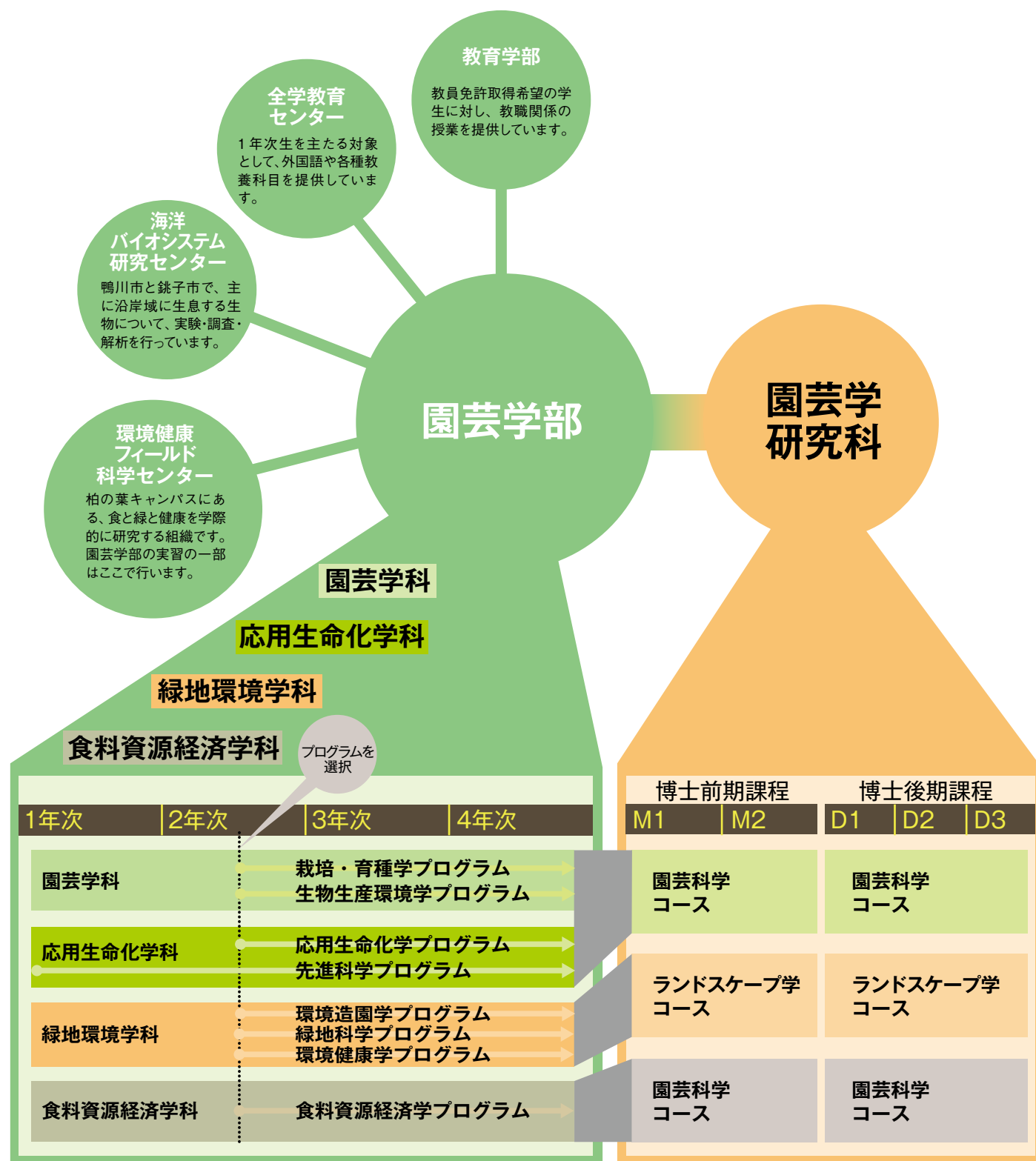
Chiba University Faculty of Horticulture 2025



食と緑の最先端へ

千葉大学園芸学部と 関連する学内ネットワーク

千葉大学園芸学部は4学科7プログラムほか、先進科学プログラムから構成されており、「食と緑」の総合学府として、他の学部・大学院・センター等とも相互に連携しながら多分野にわたる学際的な教育・研究を推進しています。



園芸学部長

百原 新

ごあいさつ

千葉大学園芸学部は、園芸とランドスケープを専門領域とする日本で唯一の国立大学の園芸学部であり、最先端の研究に取り組む「食と緑」の総合学府です。これらの分野は、いま人類にとって差し迫った重要課題であるSDGs(持続可能な開発目標)の達成にも大きく関わっています。

たとえば、肥料の問題。日本はその原料の多くを輸入に頼っていますが、資源の枯渇や価格の高騰などにより、安定供給が難しくなります。環境汚染や気候変動、生産現場の人手不足といった問題も深刻です。私たちが野菜や果物などの食べものを安心して手に入れるためには、多くの課題を解決していかなければなりません。

そうした人類の課題解決のひとつとなり得るのが、本学部で取り組んでいる植物工場の研究です。植物工場では環境負荷や労働力を最小限に抑え、安全な農産物を生産することが可能です。2023年1月には宇宙での植物栽培を目指す「宇宙園芸研究センター」を設立し、究極の植物工場としての研究をさらに推し進めています。

植物にはまだまだ知られざる潜在能力があり、人類にとって大きな可能性が秘められています。そんな植物を核とした食と緑の研究は多岐にわたり、生物学のみならず社会学、経済学、工学などさまざまな文理の学問を横断的に融合させる必要があります。

世界基準の幅広い知見と多面的な視点で物事を探求できるよう、本学では留学が卒業の必須条件となる「全員留学」の制度を設けています。多様な学びと経験を通して、未来へと続く社会に貢献する能力を高めてほしいと願っています。

沿革

1909 明治42年 千葉県立園芸専門学校創立
園芸学部の母体である千葉県立園芸専門学校が、園芸に関する高等の学術技芸を教授することを目的とし、全国唯一の園芸の高等教育機関として創立された。

1929 昭和4年 千葉高等園芸学校設置(国立移管)
千葉県立園芸専門学校は、大正3年に千葉県立高等園芸学校に改称後、昭和4年に県から文部省に移管され千葉高等園芸学校となった。

1949 昭和24年 千葉大学園芸学部設置
昭和19年に千葉農業専門学校に改称された後、新制国立大学の発足に伴い、千葉大学園芸学部として承継された。新制国立大学の農学系学部は25大学に置かれたが、園芸学部は全国唯一であった。

1959 昭和34年 創立50周年を迎える

1969 昭和44年 大学院園芸学研究科設置
学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上に、広い視野に立って精深な学識を修め、理論と応用の研究能力を養うことを目的に園芸学研究科(修士課程)が設置された。

2007 平成19年 現在の4学科体制となる
現代のニーズに合った高い専門的な能力を身に付け、これからの社会づくりに貢献するべく、園芸・応用生命化学・緑地環境・食料資源経済の4学科を設置した。

2009 平成21年 創立100周年を迎える
キャンパス内に「100周年記念戸定ヶ丘ホール」を建設。松戸キャンパスのランドスケープに関するシンポジウムが開催された。



大正4年に落成した講堂



食糧増産で畑になったサンクガーデン(昭和19年)



創立50周年記念祭のゲート(昭和34年)



創立100周年記念式典(平成21年)

千葉大学 園芸学部
<https://www.h.chiba-u.jp/>



園芸産業創発学 プログラム

次世代園芸プロフェッショナルを養成する園芸学科及び
食料資源経済学科の、学科横断型新特別プログラム

※2年次より選択するプログラムとは異なり、入試時点から選択できるプログラムです。

植物工場や大規模施設園芸をはじめとする次世代園芸産業の発展・展開を担うプロフェッショナル人材の育成を目指します。学内の豊富な施設を用いた教育にとどまらず、国内外の企業での中長期インターンシップ・実践演習を行うことにより、グローバルな視点での日本の農園芸産業を考える能力、かつ即戦力となる高い課題解決能力を身に付けます。農園芸産業及び関連技術に強い関心があり、将来農園芸ビジネスに関わりたい、あるいは自ら新たなビジネスを創りたいという意欲を持ち、日本の農園芸産業の発展に強い志を持った人材を求めます。

個性的な入試

実技を含む1次選抜で合格内定者を選考し、2次選抜（共通テスト）を経て最終合格者を決定します。学力・知識に加え、意欲・理解力・思考力・想像力、コミュニケーション能力や将来の展望など総合的に評価します。

1次選抜

模擬実習または 模擬実験

園芸作業に対する関心、意欲及び理解力ならびに植物に対する観察力を評価します。

模擬講義及びレポート

模擬講義の内容についての理解度や限られた時間に論理的に考えをまとめ、的確な言葉で表現できるかを評価します。

プレゼンテーション

直前に与えたテーマについて考察した内容を発表することにより、思考力、理解力、創造力、意欲を総合的に評価します。

面接

コミュニケーション能力、学習意欲、入学後に学ぶ分野についての広い関心、卒業後の将来計画について評価します。



2次選抜

合格内定者のうち、令和7年度大学入学共通テストで指定する以下の教科・科目の総合得点がおおむね70%に達した者を最終合格者として決定します。

大学入学共通テストの指定教科・科目			
指定教科・科目	指定科目数	配点	
理科②	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」	1科目	100点
数学	「数学I、数学A」「旧数学I・旧数学A」*	1科目	50点
	「数学II、数学B、数学C」「旧数学II・旧数学B」*	1科目	50点
			計3科目 200点満点

物理、化学、生物、地学において2科目受験している場合は、最も高得点の科目を利用します。

上記以外の教科・科目を受験しても、本選抜には影響しません。
※「旧～」で始まる科目は、学習指導要領の改訂に伴う経過措置として実施される旧教育課程履修者のみ受験可能な科目です。新教育課程履修者は受験できません。

次の①～③のすべての要件を満たす者

- ① 高等学校(中等教育学校及び特別支援学校高等部を含む。以下同じ)を令和7年(2025年)3月卒業見込みの者(学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき令和6年度中に高等学校を卒業又は卒業見込みの者を含む)及び令和4年(2022年)4月以降に卒業した者
- ② 令和4年(2022年)1月1日以降に受験した所定の英語外部検定試験・スコアの条件を満たしている者
- ③ 令和7年度大学入学共通テストで指定する教科・科目を受験する者

担当教員のみならず園芸産業界の第一線で活躍する外部講師も交えて、より早期から高度な専門性やビジネス、国際感覚、課題解決能力を、また卒業後に即戦力として園芸産業界で活躍できるスキルを身に付けることを目指しています。

※一般科目 124 単位に加え、専門科目 22 単位（非卒業要件単位）を履修します。

1年次	2年次	3年次	4年次
園芸産業創発学プログラム演習I・II 国内の先進的園芸産地、企業の農業経営体、植物工場、市場、流通現場等の視察を行います。	園芸産業創発学プログラム演習III 研究論文や実用記事などを元にした事例研究・発表・ディスカッションや園芸生産現場の調査や課題探索、それに関するディスカッションを行い、基礎的な課題解決能力の向上を図ります。		園芸産業創発学プログラム長期インターンシップ 園芸関連企業、企業の農園芸経営体、植物工場等で6ヶ月間インターンシップを行います。このインターンシップでは、インターンシップ先でのプロジェクトや大学との共同研究に参画することにより、実践的な生産技術やビジネス及び国際感覚、課題解決能力の修得を行います。このインターンシップの成果が一定基準を満たせば卒業研究の単位として認められます。
園芸産業創発学プログラム入門 園芸産業(果樹、蔬菜、花卉を中心に)の現状と課題について生産技術面及び経営・経済面から1年次生向けにわかりやすく解説します。	園芸産業創発学プログラム栽培技術論 農場実習と連携し、果樹、蔬菜及び花卉栽培における生産技術理論に特化した講義を行います。 園芸産業創発学プログラム実践研修 企業の農園芸経営体や園芸関連企業等で2週間のインターンシップを行います。		
	園芸産業創発学プログラム基礎研究I・II 園芸産業創発学プログラム履修生は1年次の終わりに専門分野及び専門分野担当教員を決定します(一般の学生は3年次)。この科目では担当教員のもとで課題設定、調査・研究方法の習得、実験・実習・演習を行うとともに、設定した課題についての調査・研究を行い、その結果をまとめて発表します。		



プログラム専門科目

総合型選抜について

■実実施学科・募集人員

園芸学科5名、応用生命化学科4名、緑地環境学科9名

■各学科が求める入学者

園芸学科：植物の生産に関する諸問題や生物学的現象に広く関心を持ち、先端的栽培技術やバイオテクノロジー、植物を取り巻く生態系や物理的・化学的環境の管理や分析など、さまざまな専門知識や技術を幅広く学び、それらを社会で生かそうとする意欲がある人

応用生命化学科：生命のしくみや生体分子の機能を探究するのに必要な知識・理論・技術を修得し、生命現象の理解や生物資源の利用、さらには食品・環境・健康に関する課題を見だし、その解決に意欲的に取り組める人

緑地環境学科：人と自然が共生する豊かで持続的な環境を保全し創造するために、緑地環境に関わる解析や、計画・設計、施工・管理・運営に関わる知識や技術を身に付け、発展させる意欲のある人

飛び入学制度

先進科学プログラム 植物生命科学先進クラス

Topic

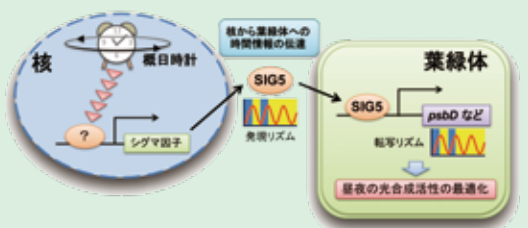
01

生命機能を生物学的・化学的に解決し
諸問題の解明に挑む

植物生命科学は、植物や植物を取り巻く環境における生命活動のしくみや関連する分子の機能を探究する学問です。その研究は、遺伝子の働きの解明、タンパク質や糖質などの分子の機能、植物と微生物の相互作用、さらに植物の機能成分が動物に与える影響など多岐にわたります。植物生命科学先進クラスは、生物及び化学を深く学び、植物生命科学に関連する分野の探究を目指す学生のための先進クラスです。植物生命科学先進クラスに入学した学生は園芸学部応用生命化学科に所属し、専門分野の授業は応用生命化学科の学生と同じクラスで受講します。



光合成機能に異常が見られる変異株(右)と野生株(左)



植物の体内時計(概日時計)が光合成機能を最適化するしくみ

令和7年度 総合型選抜の選考過程

大学、博物館、学会等の教育研究機関等が主催する研究発表会・コンテスト・セミナー・社会活動等に参加した者

園芸学部が次世代スキップアッププログラムで実施するAP基礎力養成講座等、千葉大学が主催するセミナー・講座に参加した者

園芸学部総合型選抜への応募(10/4～11)

第1次(書類)選抜(10/25 合格者発表)
第2次(面接)選抜(11/29 合格者発表)

大学入学共通テスト(令和7/1/18～19)

最終合格者発表(令和7/2/12)

千葉大学では、半年または一年早く大学に入学する

飛び入学制度「先進科学プログラム」を設けています。

園芸学部応用生命化学科では平成30年度入試より植物生命科学先進クラスへ飛び入学を希望する高校生を募集しています。

URL: <https://www.cfs.chiba-u.ac.jp>

Topic

02

植物生命科学
先進クラスで
できること



一足早く研究を

一般選抜で入学した応用生命化学科の学生は、3年次の夏以降に研究室へ配属され研究を行います。植物生命科学先進クラスでは1年次から最新の植物生命科学の研究に触れることができます。1・2年次及び3年次の夏までに複数の研究グループの研究活動を経験し、教員の指導のもと幅広い分野の研究の最前線を経験します。そして、3年次の夏頃に研究室を1つ選んで配属し、担当教員や大学院生の指導のもと最新の研究を遂行します。

少人数セミナー

植物生命科学基礎セミナーや先進教養セミナーなど植物生命科学先進クラス独自の科目によって、少人数で専門分野や一般教養を深く学ぶことができます。

海外研修

18歳の夏休みに海外の大学に1ヶ月滞在し、授業や外国人学生との寮生活を通じて国際人として必要な英語力を身に付けます(旅費、受講料、寮費免除)。

入学金免除

先進科学プログラムの入学者は入学金が免除されます。また授業料についても、選考のうえ、全額または半額免除される制度があります。

令和7年度選抜のご案内

園芸学部は、受験者の持つ資質や適性に応じて、複数の受験機会と多様な選抜を提供しています。

一般選抜

①前期日程

大学入学共通テストの成績と個別学力検査の成績及び調査書の内容を総合して判定します。個別学力検査では、英語、数学、理科（食料資源経済学科を除く）を課します。

試験日程等 試験日……令和7年2月25日（火）
合格発表日……令和7年3月8日（土）

②後期日程

大学入学共通テストの成績と個別学力検査の成績及び調査書の内容を総合して判定します。個別学力検査では、理科（園芸学科及び応用生命化学科）または小論文（緑地環境学科及び食料資源経済学科）を課し、思考力、理解力、表現力などを総合的に評価します。

試験日程等 試験日……令和7年3月12日（水）
合格発表日……令和7年3月20日（木・祝）

総合型選抜

●出願資格は、資格(1)一般選抜の出願資格条件に加えて、資格(2)高等学校在学中(あるいはそれに相当する課程の期間中)に、大学、博物館、学会等の教育研究機関等が主催する理科研究又は科学技術・園芸技術に係わる研究発表会・コンテスト・セミナー・社会活動等に参加した者(園芸学部が次世代スキップアッププログラムで実施するAP基礎力養成講座等、千葉大学が主催するセミナー・講座への参加者も含みます)。

●提出された書類(志願票、調査書、志望理由書及び出願資格(2)を証明するもの)により、第1次判定合格者を決定します。第1次選抜合格者に対して、提出された書類などに基づく面接を行い、総合判定のうえ合格内定者を決定します。なお、出願資格(2)において良好な成果または成績を得た者に関しては、その実績を総合判定において高く評価します。

試験日程等 試験日……令和6年11月10日（日）
第1次選抜合格発表日……令和6年10月25日（金）
第2次選抜合格発表日……令和6年11月29日（金）
最終合格発表日……令和7年2月12日（水）

園芸産業創発学プログラム選抜

模擬実習（または模擬実験）では園芸作業に対する関心、意欲及び理解力、ならびに植物に対する観察力を評価します。模擬講義及び模擬講義に関するレポート作成では模擬講義の内容についての理解度や限られた時間に論理的に考えをまとめ、的確な言葉で表現できるかを調査します。プレゼンテーションでは事前に与えたテーマについて考察した内容を発表することにより、思考力、理解力、創造力、意

欲を総合的に評価します。面接ではコミュニケーション能力、学習意欲、入学後に学ぶ分野についての広い関心、卒業後の将来計画について評価します。

高等学校までに修得した学力は英語外部検定試験のスコア、大学入学共通テストの理科及び数学の成績等で評価します。

試験日程等 試験日……令和6年11月9日（土）～10日（日）
合格内定者発表日……令和6年11月29日（金）
最終合格者発表日……令和7年2月12日（水）

先進科学プログラム学生選抜（飛び入学）

出願資格は、大学入学資格を有する者で、次の2つの要件を満たし、高等学校長等が責任を持って推薦するものとします。

- ① 令和7年3月31日において年齢が満17歳以下の者
 - ② 植物生命科学に関して優れた資質を有し、その探究を志す者
- 提出された書類と筆記試験（前期日程：英語、数学、化学、生物）の結果により、第1次判定を行います。第1次判定合格者に対して面接を行い、総合判定のうえ最終合格者を決定します。

試験日程等 試験日……令和7年2月25日（火）
第1次判定合格発表日……令和7年3月8日（土）
面接日……令和7年3月15日（土）
最終合格発表日……令和7年3月20日（木・祝）

私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者で、別に定める一定の要件を満たした者に対して、調査書、英語能力評価証明書、日本語能力試験、基本科目試験、面接などにより総合的に評価します。

面接では、大学教育に必要な基礎学力を調査するとともに、コミュニケーション能力、学習意欲、分野に対する広い関心について評価します。

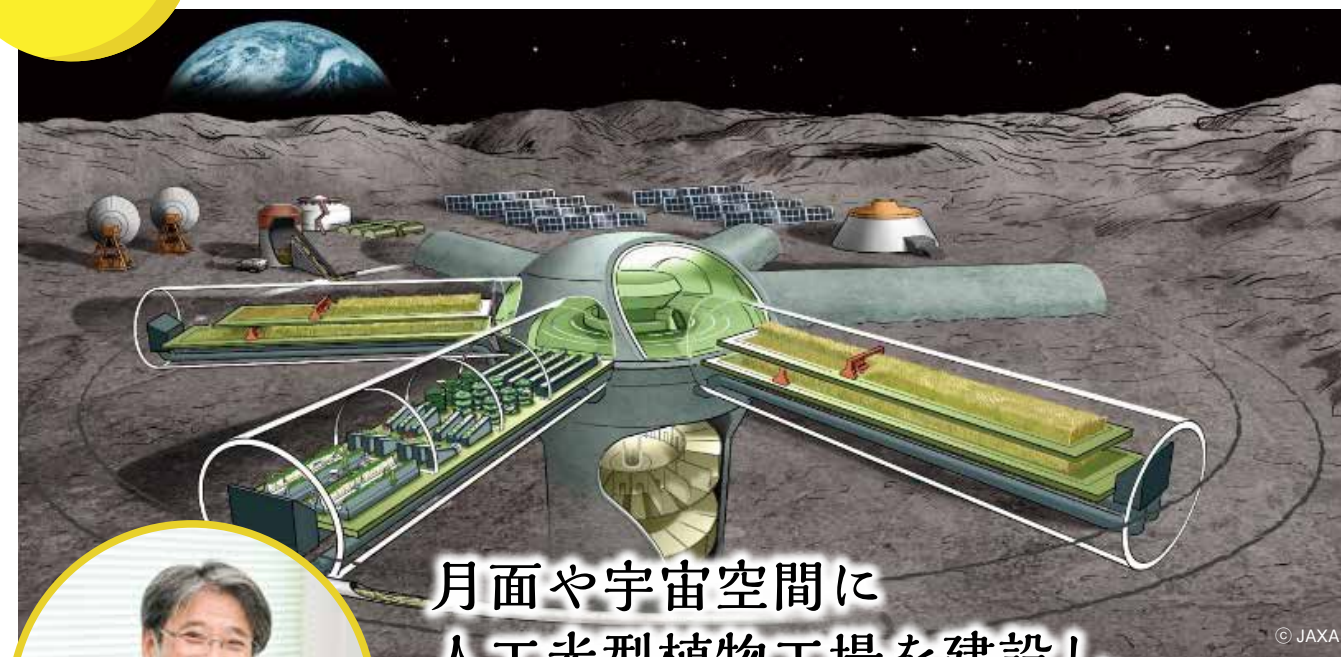
試験日程等 試験日……令和6年11月9日（土）
合格発表日……令和6年12月6日（金）

☆入試案内 →



Topics

宇宙園芸 Space Agriculture and Horticulture



月面や宇宙空間に
人工光型植物工場を建設し、
野菜や穀物を栽培する！



園芸学科 高橋 秀幸 教授

HIDEYUKI TAKAHASHI

東北大学大学院農学研究科博士後期課程を修了し、米国ウェイクフォレスト大学で博士研究員。その後、東北大学農学研究所に在職中に米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校にて客員研究員。東北大学大学院生命科学研究所を定年退職し、2023年から千葉大学大学院園芸学研究院特任教授。米国航空宇宙局(NASA)のプログラムに参加するとともに、4研究課題の宇宙実験を研究代表者として実施。東北大学大学院生命科学研究所長、日本宇宙生物科学会理事長、宇宙惑星居住科学連合代表などを歴任。



多段式植物工場のイネ栽培



トマト苗の植物工場栽培

月に、そして宇宙空間に、人類が居住する時代が迫っています。NASAが提案している月面探査プログラム「アルテミス計画」のもと、2030年代には100～1,000名程度の人間が月面に居住すると考えられています。

そのためには、宇宙で食料を生産しなくてはなりません。つまり、月面や宇宙空間で穀物や野菜を育て、持続的に食料を供給できる大規模な閉鎖系施設園芸(人工光型植物工場)が必要です。しかし、どのような品種が宇宙環境に適するのか? どのような環境制御によって高効率な食料生産を可能にするのか? そして、どのようなゼロエミッション技術によって資源循環系を構築するのかなど、宇宙食料生産システムを確立するためにはまだまだ多くの課題があります。わが国でも内閣府やJAXAがこうした課題解決のための検討・プロジェクトを開始しています。

「千葉大学 園芸学研究院附属 宇宙園芸研究センター」は、国立大学で唯一園芸学部を持つ千葉大学が、これまでの膨大な研究の蓄積を発展させ、いわば“宇宙での地産地消”を目指して設立した研究機関です。本センターの研究部門は3つ。宇宙環境で有用な形質を探索して宇宙品種をつくる「宇宙園芸育種研究部門」、宇宙における植物栽培の超効率化を図る「高効率生産技術研究部門」、資源の再生利用や物質循環によって持続的な食料生産を目指す「ゼロエミッション技術研究部門」で構成されています。園芸学部の学生が希望すれば、これら各部門に所属する先生方から直接指導を受けることが可能です。

私は令和5年1月の着任以来、宇宙品種の開発や落花生の子房柄の重力応答や宇宙における生殖成長などに関する宇宙園芸研究を展開しています。例えばゲノム編集の技術を用いて、わずかな水で育つ作物を作出できれば、宇宙のみならず砂漠地帯でも栽培可能となり、世界の食糧危機にも対処できるかもしれません。それぞれの部門において園芸学部のこれまでの取り組みを基盤に発展させ、持続的社会的形成に必要な園芸学の未来形を追求していきます。

入学者受入れの方針

Admission Policy

園芸学部教育理念は、「自然との調和、生物及び緑地環境を対象とする教育・研究を通して豊かな人間性を涵養すること」です。このため園芸有用植物を中心とする生物資源の生産と利用、関連する産業の経営や流通、自然環境の保全と快適な生活環境の創造等の諸問題に対して広い視野に立って理論的かつ実践的に対応できる能力を持つ人材を養成するとともに、国際的に通用する能力を涵養します。

園芸学部の求める入学者

1

「食と緑」の領域に好奇心をもって取り組み、新しい発見と創造にチャレンジする意欲のある人

2

高等学校までに学ぶべき事柄を幅広く修得している人

3

入学後の学修において必要となる基本科目に関する基礎学力を有している人

4

他者と協力して物事に取り組むのに必要なコミュニケーション能力と学力を有している人

5

専門技術者として、グローバルな視点、地域の視点にたって社会貢献しようとする熱意のある人

入学までに身に付けてほしいこと

- 学習指導要領等示された、高等学校において学ぶべき科目を幅広く履修すること
- 入学後の学修において必要となる基本科目の基礎学力を養うこと
- 他の人との関わり合いの中でコミュニケーション能力を身に付けること
- 広く社会に目を向け、幅広い知識を養い、豊かな人間性と社会や学問に対する好奇心を高めること

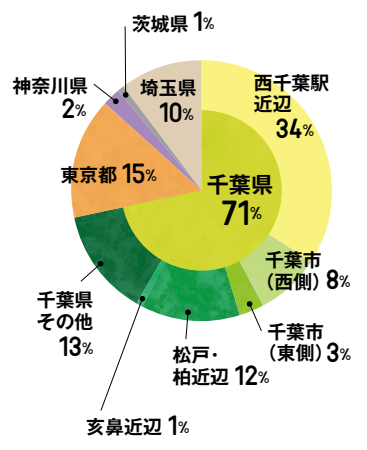


園芸学部

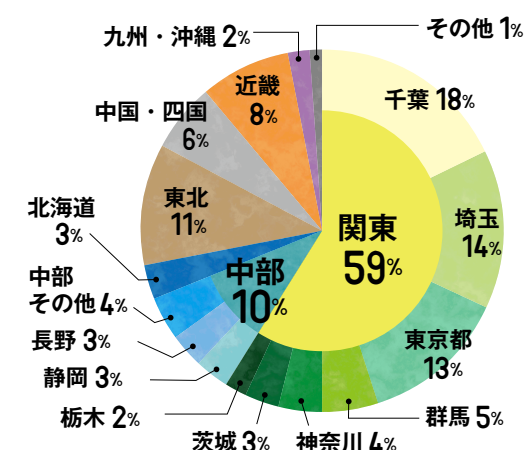
Data File

(以下①～⑥については、令和6年度入学者。構成比は小数点以下の関係で、合計しても100とはならない。)

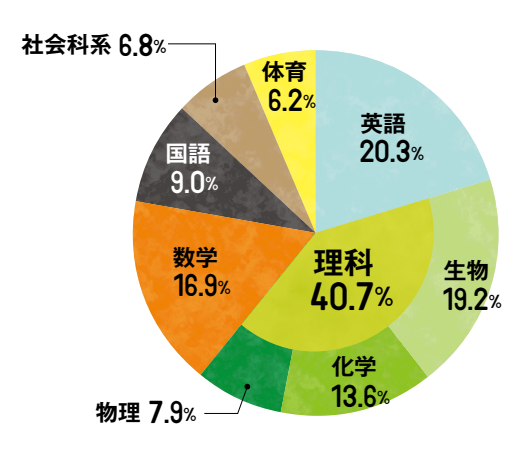
1 居住地域



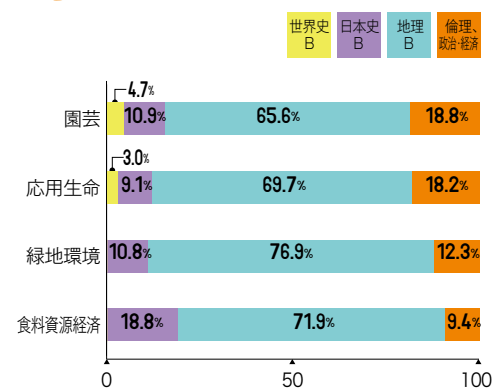
2 出身県



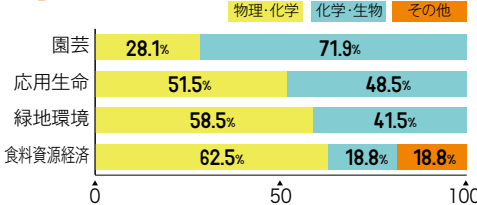
3 得意な科目



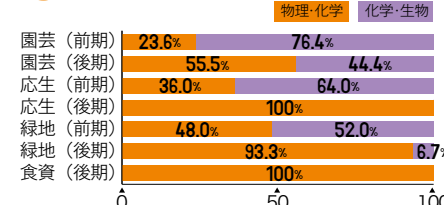
4 共通テストの社会科受験科目



5 共通テストの理科受験科目



6 個別学力検査の理科受験科目



7 取得可能免許・資格

教員免許	園芸学科、応用生命化学科、緑地環境学科共通 → 中学校1種(理科)／高校1種(理科、農業) 食料資源経済学科のみ → 高校1種(農業)
資格等	応用生命化学科 → 食品衛生管理者資格／食品衛生監視員の受験資格等 緑地環境学科のみ → JABEE 技術士試験の一次試験免除等、二級建築士及び木造建築士受験資格(所定の単位修得を要す)等 4学科共通 → 学芸員資格／危険物取扱者(甲種)の受験資格／樹木医補資格等

Q>> 下宿をしている学生はどれくらいいますか？また、寮はありますか？入寮条件はどのようなものでしょうか？

A>> 自宅から通っている学生が約50%、下宿している学生が約35%、寮に入っている学生が約10%います。松戸地区にはキャンパス内に浩気(こうき)寮という寮があります。自宅からおむね片道1時間30分以上の通学時間を要する者を対象として選考します。

Q>> 教員免許を取っている人はどれくらいいますか？

A>> 年によって人数は変わりますが、毎年5～10人程度(延べ人数)の学生が免許を取得しています。

Q>> 学生はどんなアルバイトをしているのでしょうか？

A>> 約60%の人がアルバイトをしています。業種としては一番多いのは飲食業で、次いで教育関係です。アルバイトをしている学生のうち、およそ70%がこれらの業種です。

Q>> 1年次は西千葉キャンパスに通うって本当ですか？

A>> 本当です。1年次は、松戸で必修の授業がある水曜以外は、西千葉で授業を受けます。2年次以降は、普通教育科目を取り逃した人、教員免許を取る人、初修外国語を履修している人以外は、基本的には西千葉に行くことはありません。

Q>> 高校で生物を履修していないのですが、大丈夫ですか？

A>> 普通教育科目に基礎生物についての授業はありますが、基本的には教科書・参考書等で自分で学習することになります。大学の専門課程の授業は生物の履修の有無と関係なく行われますから、必要に応じて自身の努力が求められます。

Q>> 千葉大学園芸学部の受験を決めた時期はいつ頃ですか？

A>> 高3の時が最も多く、70%の人はこの時期に受験を決めています。次に多いのは高2ですが、なかには中学生の時にすでに決めていたという人もいます。



食と緑の最先端へ

日本の園芸学研究の中心として100年以上の歴史を持つ千葉大学園芸学部。変化する社会の課題に対応すべく、その研究領域は常に進化してきました。現在も、「食と緑」をキーワードに最先端の研究が繰り広げられています。

菌たちは、どう生きたいのか—— 真の性質を知って植物病害を防ぐ

園芸学科 宇佐見 俊行 准教授

植物を病気にするのは
ほとんどが菌類(糸状菌)

私の専門分野である植物病理学の目的は、「植物を健全に育てること」。植物に感染して病気を起こす、病原菌の研究をしています。

植物を病気にする病原体は、7～8割が菌類(糸状菌)です。菌類は土壌や大気中などいたるところに生息し、膨大な種類が確認されている微生物群です。彼らはいつもお腹をすかせていて、“ご飯”を見つけて食べるとそこにカビが生えます。落ち葉やみかん、お風呂の壁、エアコンの中など彼らの好みは種類によってさまざまです。

一部の菌類は、生きた植物に感染して病気を起こします。例えば、ナスやトマトなどの土壌伝染病である半身萎凋病(はんしんいちょうびょう)を起こす病原菌は、とても小さな黒い粒「微小菌核」を形成して土の中で10年以上も何も食べずに生きられますが、これが根から感染すると病気を起こします。私の代表的な研究は、この菌が病気を起こすメカニズムを解明することです。

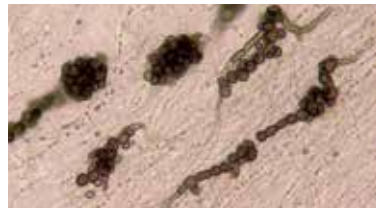
とはいえ、野生の植物は強い免疫(抵抗性)を持っているため、土の中にこうした病原菌がいても、簡単に感染することはありません。一方、人類が品種改良によってつくりあげてきた野菜や穀物などの多くは、特定の病気にかかりやすい弱さがあるため、病気が発生しないよう警戒し、対策を講じなければなりません。

病原菌の撲滅は不可能。
性質を知り、共存を目指す

すべての微生物は、悪意も敵意もない無邪気な生き物です。それは病原菌も同じです。

私が日々の研究で心がけているのは、“病原菌(微生物)の気持ちになって考えること”。彼らが何を好み、どう行動し、どのように生きていきたいのかを深く知ることが、病気発生メカニズムを解明するうえで不可欠だからです。人類がすべての病原菌をなくすことは不可能です。しかし、例えば植物工場のような高度な施設園芸では、温度コントロールなどの技術によって、病気が発生しづらい環境をつくるのが可能です。畑や水田でも、植物に病気を起こす菌類の生態、行動、遺伝、その他の性質を解明することで、栽培する植物の病害を減らし、病原菌と人類がうまくつき合っていく方法を見いだせると考えています。

植物に病原菌を接種して植物と病原菌の相互作用を研究する。



半身萎凋病菌の微小菌核。この大きさ0.1mmほどの菌核が土壌の中に残って植物の根に感染する。



ナス半身萎凋病の様子。病原性を持つ菌(右)と持たない菌(左)をナスに接種した。病原菌は植物の道管内で増殖し、発病させる。

植物の脂質を貯蔵する油滴

脂質は、植物のもっとも重要な構成成分の一つです。根、茎、花とあらゆる細胞を作る生体膜の主成分として使われるほか、発芽のためのエネルギー源としておもに種子に貯蔵されます。植物の脂質を貯蔵するための細胞小器官が、油滴(＝脂肪滴、オイルボディ)です。私はとくにこの油滴に着目し、研究を行っています。

植物は発芽し、葉を展開すると種子にためた脂質のほとんどを細胞の生体膜を作るために使ってしまうため、貯蔵脂質はぐっと少なくなります。しかし、環境的、生物的要因によるストレスを受けたときなど、状況によって葉に油滴が増えることがあります。なぜ種子ではなく、葉に脂質をためるのか? 長らく謎に包まれていたその存在意義が、私たちの研究によって徐々に明らかになってきました。

油滴のタンパク質は、
植物にとっての「道具」

まず、油滴は単なる油の粒ではありません。そこには多様なタンパク質が存在し、機能を発揮していることがわかってきました。いわば油滴のタンパク質とは、植物にとっての「道具」です。例えば、油滴タンパク質の一部は、カビの感染により誘導され、抗菌物質を作ることがわかりました。脂肪酸を酵素の働きで代謝して、カビに対抗する抗菌物質に作り替え、植物自らが病害の原因となるカビを排除していると考えられます。

そのほか葉の油滴は、過剰な脂質の隔離場所として機能していることもわかっています。つま

り、不要な脂質を安全に確保しておくうえで、非常に重要な機能を担っているのです。

今後は、油滴量が増加した植物の発見と解析を行っていきたいと考えています。私たちは、葉の油滴量および脂質含量が増加したシロイヌナズナ変異体を見つけることに成功しています。これらの変異体を解析することで、脂質合成の制御がどのように行われているのかが明らかになると考えています。油滴成分の解析により、新たな抗菌物質の発見、利用につながることや、ストレスや病害に強い植物の作出につながることも期待できます。



実験植物は基礎研究を行いやすいシロイヌナズナを用いている。

謎に包まれた葉の「油滴」 その驚異の機能を解き明かす

塩化ナトリウムを含んだ培地でストレスを与え、油滴の形成との関係性を探る。

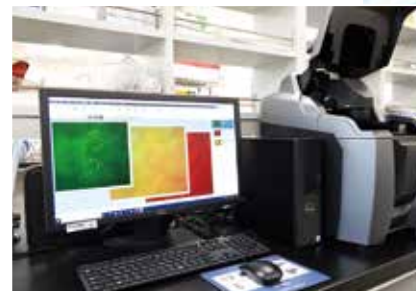
応用生命化学科
島田 貴士 准教授

研究のキーワード

植物脂質 シロイヌナズナ
油滴 顕微鏡 突然変異体

応用が想定される分野

植物脂質の増産
ストレス応答と油滴
病害に強い植物の作出



ベンサミアナタバコの葉の表皮細胞内。蛍光タンパク質が油滴について光るよう形質転換したものを。

SHIMADA TAKASHI

京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。京都大学大学院理学研究科日本学術振興会特別研究員(PD)、東京大学大学院理学系研究科特任研究員、自然科学研究機構・基礎生物学研究所特任研究員を経て、現職。

研究のキーワード

植物病理学 植物病害
植物病原菌 微生物 菌類

応用が想定される分野

植物の病害を防ぐ
菌類の能力解明
植物と微生物の相互作用解明

TOSHIYUKI USAMI

千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程を修了し、千葉大学園芸学部助手、千葉大学大学院園芸学研究科助教を経て、現職。



リモートセンシング技術で森林をモニタリングし、世界の生態系研究をリードする

緑地環境学科 加藤 顕 准教授

自然保護と保全との線引きは単純ではない

自然を保護するとは、ということだと思いますか？ 森を守るためには、木は1本たりとも切るべきではないと考える人もいるでしょう。ところが、木をまったく切らず自然のままに任せていると、木が密集しすぎて大規模な森林火災を引き起こすことになるのです。そもそも森林火災とは、自然現象のひとつ。どこでも起こりうるものです。どんな大木もいつかは必ず倒れます。こうして自然のサイクルは回っているのです。人間がこれを阻もうとすると、この大きなサイクルが狂うことになる。つまり冒頭の例は、人間が自然環境に関与したことで、本来自然現象であった森林火災がコントロールできなくなっていることを示しているのです。このように、自然環境「保護」と「保全」「管理」との線引きは簡単にはできません。

地球は意思を持ち、自らコントロールしている

地球温暖化による気候変動が問題になっています。温暖化を防止するには、その影響がもっとも大きいとされる二酸化炭素の濃度を増加させないこと、そして地球上の二酸化炭素の吸収源として大きな役割を果たしている森林を守ることが重要です。そのために私は衛星画像や地上レーザーセンサー、ドローンなどによる「リモートセンシング」という技術を駆使して広い地域の森林を効率的に測定し、そこから得られた3次元データを使って森林の量や質、形状変化をモニタリングしています。

すると興味深いことがわかってきました。森林火災が起きたあと、1年半くらい経つと森林が回復しているのです。イギリスの科学者ラグロックは、地球はひとつの意思ある生命体であるという「ガイア思想」を提唱しましたが、この緑の回復もまさにそのひとつで、地球が自分で傷を治しているのではないかと考えられるのです。私はリモートセンシング技術を使って、このサイクルを可視化したい。科学を突き詰めていくことで、人知を超えた領域に到達できるとすれば、研究者として無上の喜びです。

KATO AKIRA

米国ワシントン大学大学院森林資源学部より博士号取得後、千葉大学大学院園芸学研究科准教授に就任。レーザーを用いた研究に対して2008年アメリカ写真測量学会から賞を受賞。2020年度千葉大学先進学術賞を受賞。



千葉大学西千葉キャンパス森林スキャンニング技術による動画。



森林火災前後での3次元データ時系列解析例。
※特許第6635649号 データ重ね合わせプログラム及びデータ重ね合わせ方法

研究のキーワード

リモートセンシング

森林災害

3次元

レーザー

気候変動

応用が想定される分野

ランドスケープ

農林業

リモートセンシング

樹木の形状を「地上レーザーセンサー」で計測し、3次元のデジタルデータとして取得する。

障害者と社会をつなぎ直し、「誰一人取り残さない世界」を

食料資源経済学科 吉田行郷 教授

農業と福祉がお互いに助け合う仕組み

私が研究している「農福連携」とは、農業サイドと福祉サイドが連携して農業分野で障害者の方の働く場をつくらうとする取り組みです。今、日本の農業は高齢化、過疎化による担い手不足といった深刻な課題を抱えています。いっばう、働きたいという意思があるのに働く場がない多くの障害者の方が存在します。農福連携はこうした困っている者同士が協力することで、誰かの既存の利益を損なうことなく、多くの社会課題を解決できる可能性がある取り組みです。

日本の障害者雇用の状況をみると、企業には従業員の2.3%以上の障害者を雇用することが義務付けられていますが、この水準は先進国の中で一番低いにもかかわらず約半数の企業で達成できていません。その背景には、高度経済成長期に企業は障害者雇用をしなくてもよかったことがあり、障害者を社会から切り離して保護するという形で障害者福祉が行われてきたことも要因として考えられます。

農業と福祉をつなぐ役割の必要性

農福連携の取り組みも、農家の人と障害者施設側が相手を知らないため、お互いに「できないだろう」という思い込みが障壁となり、なかなか広がりませんでした。そこで必要だったのが、双方の間に入って、“お見合い”のセッティングをする人です。2010年、鳥取県で、農業者と障害福祉サービス事業所をマッチングする「農福連携モデル事業」が始まりました。この動きが各県に広がり、現在、32府県に農福連携のコーディネーターが配置されています。農林水産省でも研究チームが立ち上げられ、農福連携の研究が本格的に始まりました。

また、農福連携の取り組みを持続的なものとして成り立たせ、障害者の方にきちんと労働対価が支払われる仕組みづくりを広げていくことも重要です。農作業の請負だけではなく、福祉事業所が自主事業として本格的に農業に取り組む事例も増えてきています。

今後、農福連携の流れがますます大きくなっていくことは間違いありません。農業という一次産業によって、高度経済成長期に綻んだ社会と障害者の方の関係をつなぎなおすことが、農福連携の研究の根幹と考えています。

福島県泉崎村の社会福祉法人こころんが取り組む平飼養鶏。有機野菜栽培、自然栽培の稲作にも取り組む。



研究のキーワード

農福連携

障害者

農村コミュニティ

ケアファーム

マーケティング

応用が想定される分野

障害者の活躍の場の拡大

農業労働力不足

耕作放棄地の解消

農村コミュニティの再生



群馬県前橋市にある社会福祉法人ゆずりは会・菜の花での田植えイベントの様子。



今後も発展が期待される「ソーシャルファーム論」は必修科目となっている。

園芸学科

幅広く体系的な知識で
未来の地球環境を支える



園芸植物の生産に関わる栽培技術や
バイオテクノロジー、植物を取り巻く生態、
物理的・化学的な環境の管理方法の開発などを
学びます。基礎から応用までの知識と技術を
発揮できるエキスパートを養成しています。

特徴1

2つのプログラムで 幅広い視野を培う

「栽培・育種学プログラム」と「生物生産環境学プログラム」の2プログラムを用意。栽培知識の拡充だけでなく、育種から生産過程、生物の生産に関わる物理的・生物的・化学的環境の構成要素など、さまざまな場面で知識と技術が発揮できるエキスパートを養成します。

特徴2

栽培・育種学プログラム

伝統的な園芸作物のほか、薬草や機能性植物を含む広義の園芸植物生産における最先端の栽培・管理知識と技術、及び品種改良や遺伝子操作技術について学びます。また、それらの知識に基づいた育種プログラムや環境調和型施設栽培技術の開発に関連する教育・研究を行います。

特徴3

生物生産環境学プログラム

生物の生産に関わる物理・生物・化学環境についての理論を中心に、生物生産環境の創生・管理に応用できる知識を幅広く学びます。また、気象や土壌、そこで生産、使用される物質の挙動・循環、植物の生理生態・病理や利用法、昆虫・微生物についても教育・研究を行います。

都市環境における園芸産業の実現を目指す それが『未来の農業』にもつながる



齋藤隆徳助教
SAITO
TAKANORI

園芸学科は、わが国唯一の国立大学園芸学部として蓄積した教育資源に加え、教育スタッフやカリキュラムが園芸に特化しているため、園芸に関する豊富な知識・技術をより深く学ぶことができます。このような環境での学びは、園芸産業や農林水産業のエキスパートを目指すうえで大きなメリットになります。園芸学科の学生も、試験研究機関や園芸関連企業への就職や進学を通じて、園芸の行政、産業、研究の現場で活躍したいという志を持つ学生が多いという特徴があります。

本学科では、都市環境における園芸産業の実現をメインテーマに、園芸植物の先端栽培技術とその理論、それらを支えるバイオテクノロジーなどを学んでいきます。加えて、植物を取り巻く生態的、物理的・化学的環境についても学ぶことで、高度集約型農業や環境調和型農業の実現を目指します。そのうち栽培・育種学プログラムでは、園芸植物の高度な栽培技術や品種改良に関する先端技術を中心とした総合的な知識を、生物生産

環境学プログラムでは、園芸植物を取り巻く気象及び土壌環境のほか、そこに生息する昆虫や微生物に関する総合的な知識を学びます。私が担当する植物生理学では、植物の成長や環境応答についての基礎知識を学ぶことで、園芸植物の多様な生理現象を理解するための下地を身に付けていきます。また農場実習では年間を通して野菜や果物、花卉の栽培管理やその加工を行い、園芸植物の栽培や利用に関する技術を習得します。

本学科での学びは、企業的大規模生産や高度集約農業、環境調和型農業といった次世代を担う園芸技術につながっています。こうした技術・知識は、わが国が抱える農業の国際競争力の強化や自給率の向上といったグローバルな課題のみならず、環境にやさしい園芸生産の実現といった産業界が抱える課題の解決にも貢献するのです。植物だけでなく、『未来の農業』を多様な観点から学ぶとともに、これら未来の農業が抱えている課題と一緒に研究・解決していきましょう。

カリキュラム

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
2プログラム共通	普通教育科目 各種教養科目 (情報、スポーツ、一般教養など)	外国語		
	専門基礎科目 園芸学セミナー 生物学A 農場実習I	技術者倫理 生物学基礎実験3・4		
	専門科目 栽培・育種学概論 生物生産環境学概論	植物生理学 植物栄養学 作物学総論	生物統計学	専攻研究
栽培・育種学プログラム		遺伝学 蔬菜園芸学総論 果樹園芸学総論 花卉園芸学総論 植物細胞工学	栽培・育種学実験 果菜栽培論 飼料・工芸作物学 食用作物学 植物分子生物学 花卉品種生態学	
生物生産環境学プログラム		土壌学 農業気象・環境学 植物保護学 植物環境工学 化学生態学	生物生産環境学実験 土壌微生物学 害虫防除論 植物環境制御学 肥料学 農産食品工学	

学生から受験生への

message
メッセージ

植物を分子から畑まで
理解することで、人類
ひいては地球の未来を共に
見据えます。

和田拓也

他のどの
キャンパスよりも
緑豊かで、
リラックスできること
間違いなしです！

山本理紗子

自然溢れる
キャンパスで
4年間楽しく過ごせるよう
に、基礎基本を大切に
頑張ってください。

野久尾圭太

さまざまな切り口から
園芸を捉えることで
自分の生きる
世界を見る目が
変わると思います。

谷道琢朗

Student's Voice

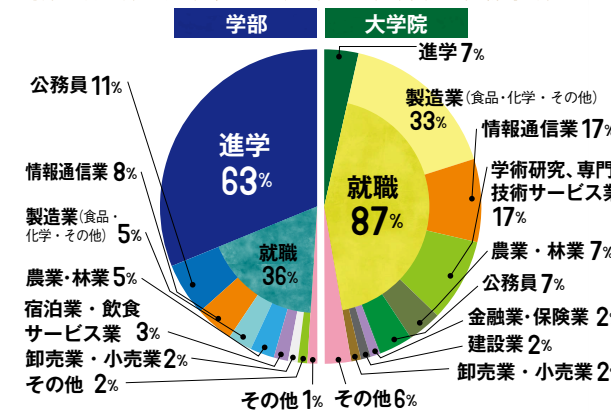


園芸学科
生物生産環境学プログラム
会沢千宙
AIZAWA
CHIHITO

飢餓や貧困の根本にある「食」。 解決には多様なアプローチがある

学んでいる内容を大別すると、栽培・育種と、植物を取り巻く環境に着目する生物生産環境です。中でも「植物病理学」が印象に残っています。世界の主要な植物病害を学び、その被害の大きさに衝撃を受けると同時に、植物だけでなく、植物を取り巻く環境を制御することの大切さを痛感しました。入学前は食料問題を解決するために食料の生産性を上げたいという漠然とした思いしかありませんでしたが、学ぶうちに同じ「食」という観点でも問題を解決するには多くのアプローチがあることを知りました。作物自身を改良する、病害を減らす、施設栽培にして育つ環境を改良する、あるいは土壌を改良するなど、今後何をテーマとして研究するのか考えていきたいと思っています。

進路



主な就職先

学部	大学院
●農林水産省 ●千葉県庁 ●山梨県庁 ●埼玉県庁 ●全国農業協同組合	●キリンホールディングス ●ポケモンセンター ●東京海上日動システムズ ●理研ビタミン ●サイゼリヤ
●農林水産省 ●東京都庁 ●日清食品 ●NTT データ ●JA 全農	●日鉄ソリューションズ ●丸種 ●日揮 ●味の素 AGF ●日本たばこ産業



時間割履修モデル 3年第1ターム

	1	2	3	4	5
月		植物病理学総論	バイオエンジニアリング		
火				生物生産環境学実験	
水				生物生産環境学実験	
木		植物病理学総論	バイオエンジニアリング		
金					English for Plant Science and Aesthetics

応用生命化学科



生物機能を生物学的・化学的に 解明し諸問題の解決に挑む

微生物や植物、動物を用いた生命資源の有効活用を目的に、
生物の機能、細胞の構成物質、代謝生産物などの性質を総合的に学びます。
食料・資源・環境など、人類が直面している諸問題を
解決できる人材の育成を目指します。

特1 徴

総合的な知識を学ぶ

「生命」「食品と健康」「バイオマス」「環境」
をキーワードとして、生化学、食品化学、微
生物学、分子生物学、有機化学などに関する
基礎学力を身に付けます。また、大学院進
学者に対しては、バイオサイエンス研究者とし
て育成します。

特2 徴

応用力を育成する教育

生物の持つ多様な機能を分子、細胞、個体、
群集のレベルで探求する意欲を持つ学生に対
して、知識・技術とその応用力を育成する教
育を行います。プログラムを通じて、社会貢
献できる意欲と実力のある人材の育成を目指
します。

特3 徴

生物資源の有効利用を 目指して

新たな有用生物や生理機能分子を探索・発
見し、その特性を明らかにします。また、それ
らの生物や分子の機能発現メカニズムを、生
物個体あるいは生態系を対象として化学的手
法、分子生物学的手法によって究明し、さら
なる社会の要請に応えていきます。

生物全般の生体反応について 多様な視点から学ぶ

応用生命化学科では、微生物から動植物まで生物
全般の生体反応について多様な視点から学ぶこと
ができます。例えば代謝経路ひとつをとっても、遺伝子
発現からタンパク質合成、酵素反応、シグナル伝達など
たくさんの現象が複雑に絡み合っています。こうした生体
機能の仕組みについて、専門性の高い講義を受けるこ
とができます。

私が専任で担当しているのは生物物理化学で、生体
における化学反応が熱力学の観点からなぜ自発的に起
こるのかについて解説しています。生体が活動するための
エネルギーは化学反応により生産されていますが、その
エネルギーを得るには多岐にわたる条件を維持する必要
があります。このような反応の場としての環境を理解す
ることで、他の授業で得た知識の理解をさらに深めるこ
とができます。加えてこれ以外にも、化学や英語、植
物の代謝に関する授業をオムニバス形式で担当してい
ます。私の授業は基礎科目から専門科目への橋渡しのよう

な内容が多いため、1、2年次での授業で基礎学力をつ
けて、専門科目での理解を促す役割となっています。ま
た、私のメインとなる研究テーマは植物色素の生合成経
路の解析です。主にアントシアニンを蓄積する園芸植物
や野菜などを対象として、どのような酵素によりアントシア
ニン構造が合成されているのか、どのようにして新たな色
彩を作り出すことができるのかについて研究しています。

社会が抱える食料・健康・環境・エネルギー問題等の
諸般の課題への取り組みは、すべて生体反応について
よく考察することからはじまります。まさにこの生体反応に
ついて専門的に教育や研究をしている本学科での学び
が、直接的にこれらの課題解決に貢献する力となるので
す。コロナ禍で学習のモチベーション維持に苦労してい
る人も少なくないと思いますが、将来像が明確であれば
突破すべき課題も見えてきます。ぜひ、私たちとともにさ
まざまな研究課題に取り組みましょう。



宮原 平講師
MIYAHARA
TAIGA

カリキュラム 応用生命化学プログラム

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
普遍教育科目	外国語 各種教養科目 (情報、スポーツ、 一般教養など)	外国語		
専門基礎科目	応用生命化学セミナー 化学基礎 生命技術者倫理 生物学 A 地学概論 A・B 物理学の世界 物理学入門 統計学 A 線形代数学 A 微積分学 A	専門基礎英語 A・B 化学基礎実験 I・II 生物学 B 生物学基礎実験 C・D 物理学基礎実験 I・II		
専門科目	生物化学 分子生物学	科学英語 A 基礎微生物学 有機化学 食品化学 植物代謝生理学 A・B 応用微生物学 酵素化学 分析化学 分子生体機能学 食品衛生学 生物化学実験 微生物工学実験 生物有機化学実験 分子生物学実験	科学英語 B 栄養化学 生物資源利用学 生物有機化学 環境微生物学 バイオテクノロジー論 生物物理化学 Scientific Presentation 食品栄養学実験 植物分子機能学実験 応用生命化学専攻実験 食品製造実習	専攻研究

学生から受験生への message メッセージ

個性的な仲間と
一緒に生命科学を
「楽しく」「真面目に」
学びましょう！

松島優一

高い意識を持った
仲間と共に
とことん学びに
打ち込める、環境の
良さが自慢です。

太田愛理沙

私は微生物が
だーいすきに
なりました！
みんなも自分の
イチバン見つけよう☆

板谷かえで

生物や化学を中心に基礎
から学びます。外国語や
教養科目も充実していて
楽しく学べます！

牧原佐代子

広く深い
生物化学分野の
学問を、ともに
学んでいきましょう！

矢田優佳



Student's Voice

充実した環境で生き物の生体反応を 網羅的に深く学べます



応用生命化学科
須田宗一郎
SUDA
SOICHIRO

応用生命化学科では早くから専門知識を学べることに
喜びを感じています。分子生体機能学、酵素化学、
生物物理化学、食品化学などさまざまな分野の専門科目を
履修し、科学的な観点で日常生活を送ることができるように
なりました。中でも「バイオテクノロジー論」は印象に残っ
ています。遺伝子工学について、実験に関する基本的な
手法を講義とディスカッション形式で深めています。PCR
法やゲノム編集などの基本的な知識を確認したのち、クロ
ーニング戦略のプロトコル作成や代替タンパク質についてグ
ループ討論を行いました。現在は植物脂質について研究し
ており、特に植物脂質の合成に関与する酵素同士の分子
機能を明らかにしたいと考えています。

時間割履修モデル 3年第1ターム

	1	2	3	4	5
月		栄養化学			
火	バイオテ クノロジー論	生物資源 利用学	応用生命化学科開講実験 (食品栄養学・ 植物分子機能学実験)		
水	物理化学				
木		栄養化学			
金	バイオテ クノロジー論	生物資源 利用学			

緑地環境学科



エコロジカルで快適な環境の 保全・創造を目指す

人間が自然と共生し、快適に生活するうえで必要な環境を創るための理論と実践を学びます。その分野は、自然環境の仕組みの解明と保全・再生、緑地空間活用の理論と技術、環境の文化史、心身の健康への緑の活用などです。

特徴1

環境造園学プログラム

緑地環境分野における自然科学的側面と文化芸術的な側面を統合する空間形成及び管理の技術と理論を中心に学びます。庭園・公園等の緑地や都市・農山村の計画・整備、自然環境保全を図りながら、人と自然が共生する環境を美しく計画・整備・管理・運営できる技術者を養成します。

特徴2

緑地科学プログラム

緑地分野の自然科学的側面、すなわち緑地環境システムやそのモデル化、緑地形成に関する工学的技術及び緑地の造成と管理に関する相互補完的な体系を総合的に学びます。またそれらの知識をさらに展開させるため、生物学と地学に関するフィールドワークを基礎にした教育・研究を行います。

特徴3

環境健康学プログラム

園芸療法やアロマセラピー等の療法的・福祉的な植物の利用や、医療福祉施設の緑化、薬用資源植物、環境教育等に関する教育研究を行い、緑地環境・園芸の知識や技術の上に健康や療法に関する知識を付加し、QOLの向上やストレス緩和など、人と環境のより良い関係構築を実現できる人材を育成します。

カリキュラム

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
3プログラム共通	普通教育科目 外国語 各種教養科目	外国語		
	専門基礎科目 数学（微積分学など） 生物学A 地学概論A・B 緑の環境を育む 緑地環境学基礎実習 緑地環境学セミナー	環境職業倫理学 環境マネジメントシステム実習 生物学B		
	専門科目 植物形態分類学 植物形態分類学演習	庭園デザイン学 緑地植物学 緑地福祉学 環境植栽学 自然環境保全学 都市緑地学 緑地環境管理学 緑地環境学実習	樹木医学 インターンシップ 安全管理・野外救命法	専攻研究
環境造園学プログラム		都市計画学 造園学原論 環境ガバナンス論 ランドスケープ空間表現学 公園デザイン学 建築学 造園図学 ランドスケープ設計論 環境造園実習I	風景計画学 環境文化史学 緑地環境機能学 緑地学 地域再生計画学 造園植栽管理学 構造力学 環境造園実習II・III	環境造園実習IV
緑地科学プログラム		群落生態学 緑地土壌学 環境空間情報学 緑地気象学 緑地科学実験実習I・II 森林管理学 生態遺伝学	緑地環境工学 再生生態学 GIS利用論 森林管理学 地被植物学 緑地科学実験実習III・IV	
環境健康学プログラム		インタープリテーション論 園芸療法論 健康機能植物学 地域看護学 福祉デザイン論 環境健康学実習I 環境健康学概論	高齢者介護論 園芸療法論 健康機能植物学 地域看護学 福祉デザイン論 環境健康学実習II 環境健康学演習	

学生から受験生への message メッセージ

自然に直接触れながら、人と緑の関わりを深く理解することができる学科です！
渡邊マリア

さまざまな庭園に囲まれたキャンパスで、一緒に緑のデザインを学んでいきましょう！
戸梶工

緑地環境学科では、自然や緑に興味のある方ならきっと自分に合った学びが得られます。
増木宏行

分子スケールから広い樹海まで、さまざまな角度から緑に浸ってみませんか？
薛天潤

緑と親友になれます！自然の中で、私たちはどうあるべきか？学ぶのに最高の環境です。
富田明花

Student's Voice



緑地環境学科
環境健康学プログラム
小西乃愛
KONISHI NOA

植物がもたらす効果を生かし、 人や自然に寄り添った環境を作りたい

本学科では大きく造園・科学・健康の3つの分野を横断的に学ぶことができ、緑に関して非常に幅広い知識を得ることができます。3つの分野は独立しているようで、互いに密接に関わり合っており、授業で先生方の話を聞くうちに多角的な視点を得ることができていると感じます。現在学んでいるのは、人の健康や生活の質を向上させるための緑の活用方法や環境教育など。授業を受けるたびに植物の生態や植物を活用する方法などについて新たな知見を得て、毎日が発見の連続です。中でも緑地福祉学では、これまで知らなかった植物が人の身体的・精神的健康にもたらす効果やそのさまざまな活用方法について学び、植物と健康の関係について関心が高まりました。

時間割履修モデル 2年第2ターム

	1	2	3	4	5
月	緑地土壌学			英語II (学術情報)	
火	環境植栽学	庭園デザイン学	緑地環境学実習		
水			水域生態学		
木	緑地土壌学		英語II (報道英語)		
金	環境植栽学	庭園デザイン学	ランドスケープ空間表現学		森林管理学



霜田亮祐准教授
SHIIMODA
RYOSUKE

社会問題に貢献できる環境造園学 ランドスケープの将来性は高い

私はアメリカのハーバード大学のデザイン大学院留学後、国内外のランドスケープ設計事務所で実務経験があります。その後設立した自らの設計事務所で、大学の研究とも連携した設計活動を継続しています。これまで伊勢神宮式年遷宮記念せんぐう館のランドスケープ、大阪・天王寺公園活性化プロジェクト「てんしば」などさまざまなプロジェクトの設計を行ってきました。本学ではこれまでの研究や計画の設計実務経験を生かし、「国際的連携による都市・地域再生と持続可能性についての研究と、そのランドスケープデザインの実践的教育」を行っています。特にこの数年は、地方寺における自然葬地計画や東北の地方都市における人馬一体の地域再生など広域スケールの空間を対象としたフィールドワークを通じて、災害復興や都市・地域再生のための自然・地域環境構造を母体とした風景計画「ランドスケープ・リージョナリズム」を提唱・実践しています。緑地環境学科の学びのテーマは「ランドスケープ学」です。風

景（ランドスケープ）とは、地域に培われた時間と空間の広がり、そしてそれらを眺める人間との間に立ち現れるイメージともいえます。ランドスケープの計画は、それらが成り立つ地面と向き合うことから始まります。同時に周囲にも目を配り、場所にかかわる環境系を理解することも大切です。ランドスケープは人間にとって心地良い居場所である土地や空間のあり様なのです。超高齢化が進む日本は今後多死社会を迎え、墓地のあり様は大きな課題となるでしょう。都心では墓地が不足し、郊外や地方では「墓地のスプロール」により環境破壊が進行しています。こうした社会的課題に対して自然環境を再生し、地域のランドスケープの一部となり得る樹木葬のような自然葬地の計画・デザインに環境造園学（ランドスケープ・アーキテクチャ）の技術・学術は大いに貢献できるでしょう。ランドスケープを考えることは、これまで分断していた世界に関係性を創るということであり、将来性は高い。ぜひ、本学でランドスケープについて学んでいきましょう。

食料資源経済学科

社会科学の視点から フードシステムへアプローチ



農学と社会科学の視点から、フードシステム全体（生産・流通・消費）を的確に理解して評価できる人材、環境・農業・地域・開発に関する施策やプロジェクトの立案と評価ができる問題解決能力を持った人材の育成を目標としています。

特徴1

問題解決能力の修得

国内外における食料・農業・生物資源・環境にかかわる問題、さらに食品産業を含む広い意味でのフードシステム全体の課題を、経済学やマーケティング論などの社会科学の理論にもとづいて分析・考察する能力を修得。特定の領域に焦点を当てた専門知識を身に付けた人材育成を目指します。

特徴2

バランスのとれた視点を養う

近年の食料や資源に関する問題は、複雑であり、多面的視点からのアプローチが必要です。社会科学や統計学といった分析手法だけでなく、関連する自然科学の基礎についても学習し、バランスのとれた視点から物事を考える力を養います。

特徴3

持続可能な社会のために

環境破壊や食の安全性、資源管理、食料の安定供給などは、持続可能な社会の実現のために解決すべき重大な課題です。現代社会における食料および農村資源や環境の役割と意義について学び、社会のあり方と個人の役割について社会科学の知識を活かし、積極的に行動する意欲のある人材を育成します。



矢野佑樹講師
YANO YUKI

「食」に関するさまざまな問題の解決に貢献しています

食料資源経済学科では、食品産業や農業・農村の現状と課題を的確に分析するために、経済学や経営学、それに基づいた専門知識、データ分析手法などを学びます。これにより、私たちの生活に欠かせない「食」をめぐるさまざまな問題の解決に貢献できることが本学科の一番の魅力です。本学科には、フードシステム学と資源環境経済学の2つの専門分野があり、それぞれ多様な課題の解決に取り組んでいます。フードシステム学分野では、食料の安定供給や安全性の確保、食生活の改善、食品に対する多様な消費者ニーズへの対応などの課題が、資源環境経済学分野では、希少な農村資源の適切な管理や保全、持続的な経済開発などの課題が挙げられます。その中で、私が担当するアグリフードビジネス論では、食生活の変化や食品産業の現状、世界の農産物貿易、食品に対する消費者ニーズの多様化などについて総合的に学習します。これによって、農業や食品に関連するビジネスや産業を取り巻く状

況や課題についての理解を深めることができます。

近年、作物の高収量・高品質化を実現するために、園芸分野では植物工場やゲノム編集などの革新的な技術に注目が集まっています。新技術に対する科学者や食産業の期待は大きい一方、一般消費者の理解はまだ進んでおらず、誤解したり不安を抱いたりする人は少なくありません。私は、こうした技術に対してどのような疑問や不安があり、それらを解消するにはどうすればよいかを統計的分析手法を用いて研究しています。技術に対する理解が深まれば、それらを受け入れやすくなり、よりよい社会を実現できると考えています。

食料や環境、資源に関する諸問題の重要性はますます高まっており、非常にやりがいのある研究分野です。また本学科で学ぶ経済学や経営学、統計学などは幅広い分野の仕事に役立つ学問であり、食品業界や行政に限らずさまざまな分野で多くの卒業生が活躍しています。興味のある方はぜひ食料資源経済学科で一緒に学びましょう。

カリキュラム 食料資源経済学プログラム

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
普通教育科目	外国語 各種教養科目 (国際・数理・データサイエンス、スポーツなど)	外国語		
専門基礎科目	農業経済学概論 食料資源経済学セミナー 経済学 線形代数学 微積分学 統計学 社会学			
専門科目	農業経営学 経済学基礎理論 園芸作物管理・収穫実習	応用統計学 フードシステム学 アグリフードビジネス論 園芸作物栽培・加工実習 ソーシャルファーマー グ論・演習 データアナリシス	資源計量経済学 消費者行動論 食品マーケティング論 フードシステム学特別講義 フードシステム学演習 資源環境経済学特別講義 資源環境経済学演習 Economics of Rural Resource Management	卒業研究 専門演習 1・2

学生から受験生への message メッセージ

選べる授業の幅が広く、
留学しやすい自由な学科です！

小坂友菜

農学と社会科学が融合した
学科。海外に目を向ける人が
多いのも特徴的です！

宮浦晃希

経済、農業と幅広く
学ぶことができます。
さまざまなことに興味がある
人におすすめです。

笠原佑希子

農場実習で学科の
仲がより深まるよ！

塩谷紀子

学科の人数が
少ないので、
団結力があります。

漆島侑大



Student's Voice



食料資源経済学科
食料資源経済学プログラム
岡田雪寧
OKADA YUKINE

園芸学から経済学まで 幅広く学んでいます

農業経済学と熱帯・亜熱帯農業の両方を学びたいと考え、食料資源経済学科を選びました。園芸学部にも所属しながら、法政経済部の経済・経営・会計の専門科目を履修できるので、さらに知見も広がります。中でも印象に残っているのは「比較農業環境論」です。さまざまな農業を起源から現在・未来まで通時的に、そして世界各地の農業を共時的に概観することができました。「園芸ビジネス論」では、経営者や普及指導員など農業分野で活躍されている社会人の方がオムニバス形式で講演していただきます。応用ミクロ経済学の1分野である産業組織論の基礎を学ぶことができる「国際食品企業論」や柏の葉キャンパスで実施する園芸作物栽培関係の実習も興味深かったです。

時間割履修モデル 3年第1ターム					
	1	2	3	4	5
月			消費者行動論		
火			技術者倫理 (専門基礎)	フードシステム学演習	
水					
木					
金			技術者倫理	資源環境経済学演習	

サポート体制

千葉大学園芸学部では、学生が安心して学業に専念できるように、奨学金システムなどの支援制度や、学生寮、進路の相談ができるキャリアサポート室などを設置し、サポートに力を入れています。

新入生導入セミナー

新入生の導入セミナーを少人数で4ヶ月かけて行います。入学した年の4月から7月にかけて、教員1名に対し6〜7名くらいのグループを作り、大学での履修や将来のキャリア形成に向け、少人数指導体制で、セミナーを行います。順調な大学生活のスタートをサポートします。



進路・就職

各企業の求人案内など就職関連資料を閲覧できるブースや、面談スペースがあり、就職に関するあらゆることを相談できます。就職ガイダンスや説明会の開催も行っています。



奨学金

日本学生支援機構奨学金制度のほか、地方公共団体、民間育英団体等の奨学制度により、人物・学業ともに優れ、かつ、経済的理由のため修学困難な場合は奨学金を申請することができます(外国人留学生以外の学生対象)。

奨学金の種類と貸与月額は、日本学生支援機構のHP等をご確認ください。

私費外国人留学生対象

日本学生支援機構の学習奨励費や各種民間奨学金給付の募集があります。これらの奨学金に応募する場合、毎年所定の時期(新入生は入学手続き時)に登録を行う必要があります。

学生寮

学生寮は、経済生活上の援助だけでなく、集団生活を通じて、社会人としての人間形成に寄与する場であり、勉学にふさわしい環境を提供し、良識ある学生としての生活を体験できるように建物・敷地等を整備しています。

松戸地区

浩気寮 所在地: 松戸市松戸648
定員: 男子42名 女子20名



大学院生による指導

大学院生による学部学生の指導が行われています。レポートの作成、卒業論文の作成において、教授などに聞くまでもない、でもわからない些細な質問は大学院生に聞くことができます。



大学院園芸学研究科

文理融合的なアプローチで
園芸学を深化させる

自然科学のみならず、社会科学・人文科学をも含む
文理融合的なアプローチによって、
「食と緑」に関する高度な教育・研究を行います。
学際的・国際的に幅広い視野を持った、
マルチエキスパートの育成が大きな特徴です。



特徴1

学際的研究拠点

園芸科学コースとランドスケープ学コースから構成されています。園芸学専門分野の深化はもとより、融合理工学府などの自然科学系研究科および環境健康フィールド科学センターと連携した学際的・総合的教育研究を行っています。

特徴2

教育理念と教育目標

「食と緑」の総合研究科として、食料資源の生産・利用・流通、人と自然が共生する生活環境の保全・創造、人々の健康・福祉、さらには地球環境科学まで、人間生活に直結する重要かつ広範な課題に対して、自然科学のみならず社会科学・人文科学をも含む文理融合的なアプローチにより、学際的・国際的に幅広い視野から教育・研究を行います。

特徴3

教育課程

深い専門性と全体を統括運営できる能力を合わせ持つ人材を育てるという教育目標を達成するため、園芸学研究科では園芸科学コースとランドスケープ学コースの2コースを、環境園芸学という1専攻に包括し、多分野横断的な統括運営能力の育成を目指します。

Student's Voice



園芸科学コース(2023年度)
博士前期課程
荒木恒平

ARAKI KOHEI

果実の品質を高める技術を開発し
高付加価値化を実現したい

研究テーマは「イチジク果実の発育および成熟と植物ホルモンの関係」です。イチジク果実にさまざまな植物ホルモンや、逆にそれらの働きを阻害する物質を処理し、果実の大きさや色づき、食味などの果実品質がどのように変化するか、またその変化を引き起こす原因は何かを調査します。それにより植物ホルモンが制御しているイチジク果実の発育や成熟のメカニズムを解明し、それを活用した果実の高品質化のための技術開発を目指しています。最先端の栽培技術や品種開発のための手法を、植物工場をはじめとした高度な施設で学べるのは大きな魅力です。身に付けた知識やスキルを生かし、新たな栽培技術の構築や、新品種の開発に携わりたいと考えています。

これまでのキャリアパス

千葉大学園芸学部園芸学科を卒業(4年間)



千葉大学大学院園芸学研究科/環境園芸学専攻/
園芸科学コース/栽培・育種学領域/
博士前期課程へ進学、
現在に至る(2年間で修了予定)

キャンパスライフ Campus Life

充実した施設や設備はもちろん、四季折々の花が咲く自然豊かなキャンパスに身をおくことで、心身ともに健康な学生生活を送ることができます。

松戸駅～キャンパス



1 図書館

千葉大学アカデミック・リンク®のコンセプトに基づき、図書館が生まれ変わりました。新たな学習環境の構築を目指し、学生の多様な学習スタイルに応えられる学習空間を提供します。
※千葉大学アカデミック・リンク
<http://alc.chiba-u.jp/concept.html>



2 教育研究棟

A～Eの5つの建物からなり、講義室や研究室があります。中でも近代的なガラス張りのB棟はひと目を引きます。



3 洗心倶楽部

千葉大学の卒業生、短期留学生及び外国人来訪者等の宿泊施設や学生・教職員の集会所としての機能を備えたゲストハウスです。



4 100周年記念戸定ヶ丘ホール

園芸学部が2009年に100周年を迎えたことを記念して建てられました。キャンパスの新たなシンボルです。



5 フランス式庭園

周囲より一段低くすることにより、見晴らしのよい庭園に。軸線を中心に左右対称の構成になっています。



6 緑風会館

1Fは文具からお菓子まで揃う大学生協、2Fは学生食堂があります。ランチ時は学生でにぎわいます。



7 研究圃場

敷地の東側には、実験や演習を行う研究圃場が併設されています。

Campus Map



2年次生の1日のスケジュール

8:30



通学

JR松戸駅から徒歩約15分。自転車通学の学生もいます。閑静な住宅街を抜けると、緑豊かなキャンパスが見えてきます。

8:50



午前の授業

午前中は、主に座学の講義科目を受講します。授業が行われるD・E棟は、毎日学生の活気で溢れています。

12:00



ランチタイム

お昼には大にぎわいの学生食堂でランチ。人気メニューはスタミナ満点の「パワー丼」。お弁当を持参する学生もいます。

12:50



午後の授業

午後からは、講義・実験・演習・実習など多様なスタイルで学習します。講義室だけでなく、キャンパス内のあちこちで授業が行われます。

16:00



サークル活動

松戸キャンパスでは、ほとんどの学生が「園芸バレーボール」をはじめ、さまざまなサークルで活動しています。

主なクラブ・サークル一覧

園芸バレーボール部
ジャグリングチーム POSSUM 松戸支部
こんぶ(バドミントン)
サイクリング部 松戸支部
MaTe(テニス)
セバタクロ一部 松戸支部

植物同好会 松戸支部
HGC(Human Green Coordinator)
松戸ミュージックサークル(MMC)
オリエンテーリング部 松戸支部
松戸剣道部
援農お宝発掘隊



卒業生からのメッセージ

Message from alumni

園芸学部の卒業生たちは学生時代に得た専門知識と経験を生かしながら幅広い分野で活躍しています。

好奇心を引き出す多様な学びと教員のきめ細やかな指導によって培われた専門性は社会に出てからも大いに役立っています。



福原修斗さん
FUKUHARA SHUTO

園芸学科卒（2015年）
環境園芸学専攻生物資源科学コース修了（2017年）
（公財）東京都農林水産振興財団
東京都農林総合研究センター勤務

人とみどりが共存する空間を目指して

都市緑化とは、安全で快適な都市環境の形成に向けて、都市のさまざまな空間に施される緑化のことを指します。景観の向上や防災、ヒートアイランド現象の緩和、身近な生き物の保全など様々な効果があり、私たちの生活に欠かせないものです。私は東京都の試験研究機関で、都市緑化に使われる樹木や草本植物について研究しています。研究テーマは「緑化植物の効率的な生産技術の開発」で、自分の研究成果を都内の植木生産者に役立ててもらえる、やりがいのある仕事です。また試験研究以外に、センター内に植栽されている400種以上の樹木の剪定作業や植え替え、展示園の整備などの業務も担当しています。そのため現場仕事が多く、日中の半分以上の時間を園場で過ごしています。

今では園場での業務が中心ですが、大学時代は細胞遺伝学を専攻し、染色体観察をテーマに研究していました。当時は一日中顕微鏡で染色体を観察し、園場にはほとんど出ていなかったのですが、分野も研究内容も全く異なるものでした。しかし、遺伝育種研究室での日々は、今の業務に生かせていると感じています。先生や先輩方、後輩たちに恵まれたのはもちろんですが、特に菊池先生の指導の下、学会発表や論文投稿、海外留学などチャレンジする機会を頂き、その中で自分の強みである「諦めず成し遂げる力」を認識できたのが得難い経験だったと思っています。これからも人とみどりがもっと身近に接する社会を築くため、試験研究の分野から植木産業の発展に貢献していくことが私の目標です。

暮らしの楽しみや場所への愛着。生活に寄り添う緑をつくる

団地の屋外空間に関する設計・積算・工事監理を行っています。屋外空間を設計・施工する際には、机上の図面だけで検討するのではなく、その場所の歴史や環境、特性を考慮した上で樹種や材料、工法を選択する必要があります。さらに緑地の機能に期待される効果や、制度による制約、植物ごとに適する植栽環境なども複合的に検討しなければなりません。制約のある中でいかに最適解を見つけ出すか——これは学生の頃にはなかった視点であり、苦労するところでもあります。しかし、多様なプロセスを経て完成した屋外空間に対して、お住まいの方に「きれいになったね」と言ってもらえただけと大きな喜びを感じます。私は学生の頃から「人の生活に寄り添う

緑」に興味がありました。大学では「造園」という学問を軸に、グリーンインフラや緑地に関連する制度、植栽管理などさまざまなことを学びました。その際に身に付いた専門用語や予備知識が、業務に生かされています。また他大学との合同研究プロジェクトでは長期的に持続している集落の現地調査を行い、写真や映像からは得られない生きた知識を得ることができました。緑地は地球環境には必要不可欠な存在ですが、衣食住という面では意識されにくいと感じています。そんな中、「このおかげで日々の暮らしに楽しみが増えた」「この場所がもっと好きになった」と少しでも感じてもらえるような屋外空間を手がけることが今後の目標です。



武田奈緒さん
TAKEDA NAO

緑地環境学科卒（2014年）
園芸学研究科 緑地環境学コース環境造園学領域
修士課程修了（2020年）
独立行政法人 都市再生機構勤務

感性が大切なメイク製品開発。 新たなトレンドを生み出したい

ワクワクしたり、自分に自信を持たせてくれたりする化粧品に関わる仕事がしたいと思い、この仕事を選びました。現在はファンデーションや口紅など、メイク製品の研究開発をしています。業務は、色材やラメ、油剤などの原料を混ぜ合わせてサンプルを作製するだけではなく、商品企画や品質保証、生産などさまざまな立場の方と議論を重ねながら、次のトレンドを生み出すような新製品の開発に取り組んでいます。研究室で日々仮説と検証を繰り返した経験は、目標品質に一歩ずつ近づける仕事の進め方にそのまま生きていると思います。また製品開発を進めるにはコミュニケーションが不可欠で、普段から雑談を交えてメンバーとディスカッションをしていた研究室の環境も

役立っています。研究は楽ではありませんでしたが、素敵な先生や愉快的メンバーに支えられ充実した研究生活を過ごすことができました。メイク製品は化粧持ちなどの機能性のみならず、見た目の良さや使い心地など言葉で表しにくい“感性”が非常に大切ですが、これは同時に表現するのが難しい部分でもあります。それだけに、苦労して開発した製品が店頭に並んでいるのを見るとうれしくなりますし、ランキングや口コミなど目に見える形でお客様の声を受け取れることにやりがいを感じます。メイクには外見だけではなく心も彩る力があると思います。使う人が自信を持てたり、なりた自分近づけたりするような、ユーザーの心に響く製品開発をしていきたいです。



江澤あやめさん
EZAWA AYAME

応用生命科学科卒（2016年）
融合科学研究科 ナノサイエンス専攻
ナノバイオロジーコース修了（2018年）
株式会社コーセー勤務



折笠貴寛さん
ORIKASA TAKAHIRO

生物生産科学科卒（2001年）
自然科学研究科生物資源科学専攻
（博士前期課程）修了（2003年）
自然科学研究科生命資源科学専攻
（博士後期課程）修了（2007年）
国立大学法人岩手大学農学部勤務

幅広い分野を学んだことで 自分の学問分野の立ち位置が把握できた

准教授として農業環境工学分野（農産食品プロセス工学）の教育研究に携わっています。研究においては、投稿した論文を査読者のコメントに基づき何度も修正を繰り返し、掲載に至ったときにひとつの達成感を覚えます。園芸学部は、蔬菜・花卉・果樹などの園芸学のみならず、農学に係る幅広い分野の講義が開講されています。学部生の時は気付きませんでしたでしたが、こうした講義を履修したことで、農学分野を俯瞰した上で自身の学問分野の立ち位置を把握できるようになったと思います。「よく学び、よく遊べ」を実践した学生時代。その時に経験した苦労やその後の息抜きは今の私の財産になっています。その一方で国立大学の教職員数が減少している

にもかかわらず業務は年々増加しており、教員が学生と接することのできる時間が大幅に減少しているように感じます。そんな中、研究室に入った当初は何をしたらよいのかもわからず受け身の姿勢だった学生が、卒業するころになると「ディスカッションしたい」と言ってくるなど、主体的に行動できるようになってきます。そうした成長の様子を間近に見ると教員冥利に尽きます。近年、SDGsが注目されており、さまざまな分野で持続可能な社会の構築に向けた取り組みの強化が求められています。今後は、持続可能な農業食品関連産業のあり方について自ら考えるのはもちろん、そのような視点を持つものごとに取り組める人材を育てていきたいと思っています。

サイバー安保能力の強化に向けた政策課題に取り組んでいます

園芸学部で学ぶ中で、日本の農業の現状に危機感を抱きました。問題を解決したいと考え、政策立案、法律作成等を通して日本の農業の方向性を決定する農林水産省に入省しました。入省後は「食料・農業・農村白書」の執筆と広報を担当。学生時代に読んでいた書籍の作成に携われたのは大きな喜びでした。現在は出向して、サイバー安保能力の強化に係る法律作成及び制度の企画・立案に携わっています。農林水産業とは異なる分野を対象としてはいますが、他省庁の職員と協力して政策課題に取り組むプロセスは非常におもしろいです。仕事のスケールが大きいため、担当している政策分野に関する情報の整理や全体像の把握、多数の関係主体との調整には特に苦労しますが、納得の

いくアウトプットが得られたときはやりがいを感じます。食料資源経済学科では、統計学を扱うゼミでデータ分析の手法等を学びました。学んだ統計学の知識が、白書を作成する際のデータの整理・分析に役立ちました。近年は合理的根拠に基づく意思決定がさまざまな分野で求められており、データ分析の重要性が高まっています。国家公務員も「EBPM（根拠に基づく政策立案）」の観点が重要であるため、大学時代の学びは大変有益だったと感じています。近年DX化が進む農業や食品産業において、サイバーセキュリティの観点は重要です。専門性を高め、「農業・食品産業×サイバーセキュリティ」という新たな分野の課題にチャレンジしたいと考えています。



加藤千瑛さん
KATO CHIAKI

食料資源経済学科卒（2021年）
内閣官房サイバー安全保障体制整備
準備室勤務

園芸学科
教員から

園芸学の成果を通じて、
世界にイノベーションを
起こしましょう。

中野明正

新しい農業が待っています。
未来は君らの手の中！

深野祐也

多様な植物を形作る
遺伝の仕組みと一緒に研
究しましょう！

菊池真司

野菜の研究を通じて
心と体を鍛えよう！

淨閑正史

風景計画学とは、環境を
理解し、風景を楽しみ、
自然に親しむ学問です。

古谷勝則

生活する人の目線
で、緑豊かな都市と農村を
つくることを学ぼう！

齋藤雪彦

緑地環境デザインの国際的専門職で
あるランドスケープアーキテクトになる
ための素養を身に付けることができます。

霜田亮祐

植物好き集まれ！
植物と環境の相互作用を学び、
一緒に未来の地球を考えよう。

松岡延浩

最先端の野菜生産をさらに進化
させるような研究をしてみませんか？

塚越 覚

より豊かでカラフルな生活
のために、一緒に花き園芸
を学問しましょう。

出口亜由美

園芸を究めよう！

渡辺 均

園芸学 部長から
自然のすば らしさと
植物の秘 めた力を
見つける探 究の旅に
出かけ よう！
百原 新

千葉大学
教職
受験

園芸学部
員から
生への

mes sage
メ ッ セ ー ジ

さまざまな花の色はどの
ように生まれるのか？
一緒に研究しましょう。

國分 尚

園芸学を基礎として
革新的な食料生産
システムを創造
しましょう。

後藤英司

果物は日本が世界に誇る
芸術品。そんなおいしい果
物の研究してみませんか。

齋藤隆徳

スゴイ植物を作るため、
遺伝子から植物のナゾに
迫ってみよう。

佐々英徳

植物が命を繋ぐ技(生殖)の神秘を探り、
新しい植物創りを目指しましょう！

井川智子

ドローンなどの最先端
機器を使った農作物診
断の可能性を開拓しま
しょう！

濱 侃

園芸プロフェッショナルを
目指すならどうぞ園芸産業
創発学プログラムへ！

大川克哉

食べ物としての植物の
性質をいろいろな観点から
研究しましょう。

小川幸春

植物に病気をおこす不思議な微生
物たちを研究してみませんか？

矢野雅宏

自然界に共存
する植物、害虫、天敵たち
の生き残り戦略を解き明かそう。

長 泰行

植物の潜在能力を
引出し上手に利用する
ことで社会に役立つ
研究をしています。

彦坂晶子

植物を攻撃する病原微生物
の攻撃手段を解明し、
植物の病害を防ぎます。

宇佐見俊行

植物共生微生物の農
業利用に研究しています。
共生のチカラを一緒に
探求しませんか？

坂本一憲

環境調節で
植物生産システムの
フロンティアを一緒に
開拓しましょう。

吉田英生

農作物を食べる害虫
の管理およびDNAで
昆虫の進化を研究中、
虫好き歓迎。

野村昌史

ビッグデータを植物の品種
改良に活かす方法を一緒に
考えましょう！

南川 舞

植物の色が
どのような酵素により
生成されているのか
代謝経路を明らかにしましょう。

宮原 平

ワクワクするような
植物分子生物学を
しましょう。

園田雅俊

食料・環境・生命を支える
『土』のひみつ。
まだまだたくさん
ありそうです。

八島未和

応用生命
化学科
教員から

食品の機能を
研究することにより、健康・
病気・生命科学を
学びましょう。

江頭祐嘉合

分子レベルの研究
から社会への応用に至る生命
化学の研究が待っています。

児玉浩明

有機化学の力で生命機能
分子を作り出し、
生命の謎の解明に
チャレンジしよう。

土肥博史

緑豊かなキャンパスで、
生物の不思議を専門的に
楽しく学びましょう。

相馬亜希子

一緒に新しい微生物を
見つけて、物質生産や環境
浄化に役立てましょう。

天知誠吾

生命科学を深く学び、植物の
持つ新しい機能を一緒に
発見しましょう。

華岡光正

メタボなどの病気の
予防に役立つ食品を
見出し健康寿命の
延伸に貢献しよう。

平井 静

植物細胞の中から、
人に役立つものを
探してみませんか？

島田貴士

分子レベルで紐解く食品。
新たな栄養素や代謝産物を
一緒に見つけよう。

高橋一聡

自然から生理活性物質を探し、見つける、
作ることを専門にしませんか？

加川夏子

食の奥深い世界をローカル/
グローバル双方の視点から
学ぶことができます。

櫻井清一

将来、食品業界に関する
仕事に携わりたい人には
ピッタリの学科です！

矢野佑樹

持続可能な社会を目指すうえで
食と農の社会科学はますます重要です。
共に学びましょう。

加藤弘祐

生物を育て自然の影響もある農業を
経済学で分析する面白さを
是非あなたも！

吉田行郷

食品の安全性や豊かな農村環境はいくらかな？
答えは経済学にあります。

栗原伸一

環境と人との関わり方について
一緒に考えてみませんか。

丸山敦史

食料資源
経済学科
教員から

課長から

歴史と伝統を誇る園芸
学部で、食と緑の最先
端の研究を経験して
ください。

横山保朗

親身になってくれる
先生が多い学部です。
充実したキャンパスライフを
手助けします。

佐藤真梨

季節を感じる
緑あふれるキャンパスで、
のびのびと楽しい
学生生活が待っています。

北村雅子

グローバルで実り豊かな
キャンパスで皆さんを
お待ちしております。

長尾 彩

事務局
職員から

千葉大学生協園芸学部購買部から
応援します!! 園芸キャンパスライフ。お待ちしております。

佐合義之

緑と国際色豊かなキャン
パスで、植物や環境につ
いて研究しませんか？

鈴木哲朗

緑豊かな良い環境で植物、環境に
関する知識を深めましょう。

岡田恵理

緑地
環境学科
教員から

一人ひとりの
豊かな暮らしと
自然環境との調和
の実現に向けて、
一歩ずつ前に。

秋田典子

私たちと一緒に、環境にも人にも
優しい緑のまちづくりを
目指しませんか。

柳井重人

公園、庭園、緑地を
共に歩き、調べ、
学び、心地よい
空間をつくるスキルを
身に付けましょう！

竹内智子

ランドスケープ！
生きとし生けるものの
希望を未来につなぐ
仕事です。

木下 剛

緑の創出・保全、公園
や街路樹などの管理に
関する理論・技術を
学べる学科です。

近江慶光

ぜひ一緒に研究しな
がら多くのことを学
んでいただきたいと
思います。

富樫辰也

森林の中の生物たちの生き方・
関わり合い方を解明しよう！

梅木 清

園芸を活用して
QOLを向上させる。
そんな一翼を
担ってませんか。

野田勝二

農と食が秘めた
無限の可能性を、
経済学や地理学の視点
から探求しましょう。

梅田克樹

自然が人にもたらす
リラックス効果を
科学的に解き明かして
みませんか？

池井晴美

衛星データや
3次元データを活用し、
今まで見たことのない緑の
姿を発見しよう。

加藤 顕

一緒に楽しく
緑地のつくり方と
使い方を究めま
しょう。

高橋輝昌

園芸療法やアロマ
セラピーなど、緑に
よる癒やし効果につ
いて学びませんか？

岩崎 寛

人と環境の関係を
より良くするために
何かしたいと
思っている人を
待っています。

三島孔明

持続可能で美しい都市空間や
農村空間をデザインするた
めに、科学的な思考に加
えて想像力と美術力、工作能
力を高めていきます。ランド
スケープデザイナーの卵として
是非参加してください！

武田史朗

国際交流 International Exchanges

園芸学部では、学生の海外留学を積極的に支援しています。留学のための奨学金も用意されており、留学ガイダンス、留学準備、実際の留学生活中のサポートを教員が積極的に行っています。



園芸学部の 国際的な取り組み

将来、世界をリードする人材を育成するため、学生の国際力を伸ばす多くの取り組みがなされています。

イングリッシュハウス松戸



園芸学部のイングリッシュハウスには学生、教員、日本人、外国人留学生関係なく、英語でコミュニケーションしたい人が集まります。自分の英語レベルは気にせず、気軽にいろいろな国の人と交流できます。最新の英語教材や設備も整っており、季節のイベントなども開催されます。



留学生による地域国際化活動

園芸学部・園芸学研究科に所属する留学生が組織する留学生会は、学内・学外を問わず活発な活動を行っています。毎年開催されている国際交流フェスティバルやクリスマスパーティでは、近隣地域の市民を招き、留学生の出身国の文化を紹介したり、料理をふるまうなど、積極的な交流をしています。また、留学生による小中高校

訪問授業も盛んで、地域全体の国際化の中核を担っています。



国際的共同研究や学術集会

授業やプログラムの中には、海外の協定校からの留学生が参加するもの、日本人学生が海外の協定校で参加したりするものがあります。また、大学院の授業では英

語で行われる科目も用意され、園芸学部教員による国際的な共同研究も盛んです。このような国際的学術交流を促進するための国際集会も開催されています。



協定校 Global Network of Exchange Schools

世界の約200大学とネットワークを持つ千葉大学。園芸学部でも多くの大学と独自に学部間協定を結んでいます。



部局間交流協定校(園芸学部) (2024/4/1現在)

大学間交流協定校(園芸学部関係) (2024/4/1現在)

※園芸学部関係以外の大学間交流協定校については、大学ホームページをご覧ください。
<https://www.chiba-u.jp/global/affiliate/college.html>

松戸キャンパスの留学生一覧 (2024/5/1 現在)

		アジア	アフリカ	その他	計
学部	男	8	0	0	8
	女	5	0	0	5
	小計	13	0	0	13
大学院	男	23	1	2	26
	女	59	2	1	62
	小計	82	3	3	88
非正規生	男	6	0	1	7
	女	6	0	1	7
	小計	12	0	2	14
総計		107	3	5	115

①	スウェーデン農業科学大学 ランドスケープ計画・園芸・農業科学部
②	シェフィールド大学 社会科学部ランドスケープ学科
③	ライプニッツ大学 ハノーファー建築・ランドスケープ学部 ドレスデン工科大学建築環境学部
④	ヴァイヘンステファン・テウリスドルフ応用科学大学 ドレスデン応用科学大学 ローゼンハイム応用科学大学
⑤	セントイシュトバン大学農業環境科学部
⑥	ベルサイユ国立高等園芸学校
⑦	ベルン応用科学大学
⑧	ポーロニヤ大学農業・食品科学部
⑨	トリノ大学農学、森林科学及び食品科学部
⑩	テッサロニキ・アリストテレス大学
⑪	ブルサレト農学獣医学大学
⑫	アクデニス大学
⑬	エジプト国立リモートセンシング宇宙科学機関
⑭	バサイトマ大学
⑮	マケレレ大学
⑯	カラカルバクスタン農業・農業技術大学
⑰	インド農業科学大学農学部バンガロール校
⑱	タミール・ナドゥ農業大学
⑲	イェジン農業大学
⑳	カセサート大学
㉑	マヒドン大学
㉒	キングモンクット工科大学トンブリ校
㉓	チュラロンコン大学
㉔	プリンスオブソングクラ大学

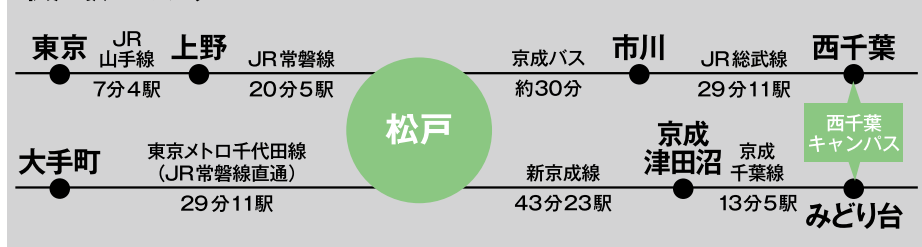
㉕	コンケン大学 チェンマイ大学 メーファールアン大学 メージョー大学 ラチャモンコン工科大学イサーン校 サコンナコンキャンパス メーファールアン大学農工学部 マハサラカム大学技術学部 タイ国立科学技術開発公社 国立遺伝子工学・生物工学センター (BIOTEC) プラバ大学理科学部食品科学科
㉖	ボトラ・マレーシア大学農学部
㉗	テーラズ大学バイオサイエンス学部
㉘	ボゴール農科大学 バジャジャラン大学
㉙	マカッサル国立大学大学院 ハサヌディン大学
㉚	ランブマンクラット大学農学部
㉛	国際稲研究所
㉜	フィリピン大学ロスバニョス校
㉝	ノンラム大学
㉞	ベトナム国立農業大学
㉟	華南農業大学農学部 福州大学生物科学与工程学院
㊱	江蘇大学農業設備学部 湖南大学 湖南農業大学園芸園林学院 貴州大学 南京農業大学

㊲	四川大學建築と環境学院 西南大学園芸園林学院
㊳	上海交通大学 青島理工大学建築学院
㊴	山東農業大学 中国農科院農業環境及び 可持續發展研究所 中国科学院／地理科学・資源研究所 ／亜熱帯農業生態研究所
㊵	中国農業大学 清華大学 清華大学／建築学院／三角研究院 北京林業大学 北京林業大学園林学院
㊶	瀋陽農業大学 水利学院／食品学院／工程學院／林学院／經濟管理学院 大連工業大学 管理学院／芸術学院
㊷	全南大学校農業生命科学大学
㊸	ソウル国立大学 ソウル国立大学農業生命科学部 順天大学校
㊹	国立中興産業・自然資源学院
㊺	ブリティッシュコロンビア大学理科学部植物園・植物研究センター
㊻	ワシントン大学環境学部環境森林科学学科 ／建築・都市計画学部
㊼	アリゾナ大学
㊽	西カロライナ大学芸術・科学学部
㊾	ISA 大学
㊿	パナマ大学 パナマ工科大学 マッセイ大学

Access アクセス



松戸駅へのアクセス



千葉大学 園芸学部

<http://www.h.chiba-u.jp>

〒271-8510 千葉県松戸市松戸648番地
TEL 047-308-8712
FAX 047-308-8720

